



[トレンディビュー]
TREN

kansai
大阪府
医療法人
きたはらファミリークリニック
理事長
北原 光輝

大阪の都心エリアで患者のニーズに応える
為、プライマリ・ケアを重視したクリニック
を開業している北原理事長に、在宅医療
の現実と医療・介護をサポートする法人の
取組みについてお話を伺いました。

— 10年前開業するにあたり一般のクリニックではなく、在宅医療
に力を入れたクリニックを開業された理由はなんですか。

内科医、泌尿器科医として総合病院に勤務していた頃は、ずっと急
性期医療に携わっていたので、患者さんを治して帰っていただくこ
とが当たり前でした。しかし、高齢社会を迎えすべての患者さんの
病気を治して自宅へ帰っていただくことが難しいことを、大阪赤十
字病院に職中に実感しました。そこで地域医療、プライマリ・ケア
(予防医学) の重要性を認識し開業に至りました。

開業医になってからはターミナル医療をメインにしてきましたので
看取りも多く、最初は今までとの違いに自分の無力さを感じ、戸惑
うこともありました。しかし、今ではターミナル医療をする医師が
いてもいいと思うようになりました。

患者さんの残された時間を安心して過ごしてもらうために、自分が
できることを最後までできますし、全人的に診る総合診療として患者
さんと関わることができ、今だに勉強になることが多くとてもやりがいを感じています。



VIEW

「医療重視」の介護施設

— 開業されて10年が経ちますがどのような医療を提供してこられ、今後どうしていきたいとお考えですか。

元々内科、泌尿器科が専門でしたので、高血圧、糖尿病、高脂血症などの一般内科と、泌尿器、腎臓疾患を中心に外来診療を行い、外来受診できない患者さんのために往診や定期的な在宅診療に力を入れてきました。

しかし、当院がある阿倍野エリアは高齢化が特に進んでいて、一人暮らしの高齢者がとても多い地域です。高齢者は持病が悪化して自宅で過ごすことが難しくなっても、老人ホームへ入るともう最後だと思う人が多く、なかなか施設へ入る勇気がなく自宅で亡くなる人が増えています。ですから、私たちのような在宅診療の技術と人材を活用して、地域住民への声掛け・見守りのネットワークを作りたいと思っています。

訪問看護師が多数在籍していますので、地域の病院や診療所と連携することで、一人でも孤独死を防ぎたいと思います。

— 法人としてクリニック以外に住宅型有料老人ホーム「マザーティ長堀」をお持ちですが、それも今のお考えから作られたのですか。

開業当時まだ患者さんも多くなかったので、外来以外の時間に訪問診療をしたことがきっかけで、近隣の介護施設からも要望が相次ぎ、今では1,500名程の依頼があります。このように今は重篤な状態でも医療制度のルールでは、病院から退院させられてしまう人が多く、在宅医療で診れるキャパシティーを超えていたのが現状です。実際に当院も依頼を受けても人手が足りない状況です。しかし、そういう方々を断りたくない。自宅にいてはいけないような状況の人人が、やむを得ず自宅にいる現状に疑問を感じ、自分で老人ホームを作りました。

老人ホームというと高い料金を取って、介護度の低い人だけを受入れているような施設もありますが、うちでは他の施設が引き受けないような介護度4~5くらいの人を優先的に受け入れています。

365日24時間看護師を常駐させ、全室に医療用テレメーターとナースコールを設置しています。このような体制の老人ホームは他にはないと思います。

— 老人ホームに看護師の配置義務はないのに、コストがかかっても配置するその想いはなんですか。

利用者は医療のことを詳しく知らない人が多いです。また、他の施設経営者たちも同じです。トラブルが起らないことが前提ですから、看護師や医療機器の設置もほとんどありません。しかし、私たちは病院的な考え方で介護についても考えてしまいます。医師はトラブルが起きる前提で物事を考えますので、自然と医療に特化した老人ホームになっていました。

看護師が常駐していれば痰が詰まったなどの、軽い症状はすぐに処置すれば問題ないものを、常駐していないがためにそれだけのことで亡くなった人を何人も見てきました。

将来的には医師も24時間体制で配置したいと考えています。

医療用テレメーターでは、24時間入所者の心電図や心拍を専用無線通信を使い、医師や看護師が所持している端末で常時確認するこ

とができます。これにより異変にもすぐに対応できますし、スタッフの負担軽減にもつながっています。実際にこのシステムを導入してからの死亡率は低下しています。

— 現在新しい老人ホームの建設が進んでいるとのことです、クリニックの医師で全てを対応することは困難ではありませんか。

マザーティ長堀を開所するにあたっては大阪大学、大阪市立大学、関西医大、近畿大学から約30名の医師を派遣していただきました。質の高い医療を提供するにはやはりマンパワーが必要です。病院でもないこのクリニックに医局からの派遣があるなんて、と思われるかもしれません、自分の人脈や今まで手伝っていただいた先生の紹介など伝手を頼りました。それ以外には飛び込みで大学医局にお願いに行き、私のやりたい医療と介護について何度も説明に行きました。その甲斐あってか教授にも理解していただき、多くの医師を派遣してもらいました。

多くの医療スタッフに支えてもらい、医療と介護の2本立てで從来の介護施設ではできなかった、処置や治療ができる施設にしていきたいと思います。

マザーティ長堀は22部屋しかなく、まだまだ多くの利用者さんから入所希望をいただいているので、現在桜川にも新たに老人ホーム(マザーティ桜川)の開業準備を進めています。

ここは少し規模を大きくして50名の受入が可能で、もう少し介護度の幅を広げようと考えています。

この地域の高齢の方々が安心して生活を送っていただくために、もっと多くの同志を集めニーズに応えていきたいですね。



「マザーティ長堀」大阪市東成区大今里西2丁目(写真左上、左下)

「マザーティ桜川」大阪市浪速区桜川(写真右)

<安心対応の老人ホーム／365日24時間、看護師常駐・医師巡回対応>
医療法人が運営する老人ホームは医療と介護のサポートがある、恵まれた環境の中で安心して暮らせる施設。



REPORT
医療法人
きたはらファミリー
クリニック
(⇒P210)

老人ホームを医療機関が直営することで、医療重視の介護を提供し、医療費と介護費の削減にも努めています。今後の超高齢社会で大きな問題となる医療と介護。同院のような生活に根差した、医療と介護を提供する医療機関がますます求められることでしょう。